

健康

質問 80代の母親が手術をしました。手術後に見舞いに行くと、母が「家でお風呂を沸かしているから見舞い帰る」「赤ちゃんの泣き声がする」などと、意味不明のことを言ったり、点滴を抜いたりしていると看護師に聞きました。母は認知症になったのですか。

手術後に意味不明の言動



原田 路可
徳島大学病院
安全管理部看護師長

回答 は、脳の神経細胞が死滅し、動きが悪くなることで、さまざまな症状が出る状態です。発症が入院後からであれば、認知症ではなく、せん妄の症状が考えられます。

せん妄は、発熱や脱水など身体症状に伴って脳機能の調整がうまくいかずに起きる一過性の意識障害です。脳の神経細胞が失われる認知症とは別の症状です。
入院患者の10〜40%がせん妄を発症するとされています。高齢者や、大きな手術後のがん患者は発症率が高いです。特に認知症の人は、もともと脳機能が低下しているため、肺炎や脱水などの症状が加わると、せん妄を起しやすくなります。
せん妄の症状は多岐に

認知症でなく「せん妄」



わたります。注意散漫で落ち着きがなくなったり、日時や場所が分からなくなったりすることが起ります。実際にはないものが見えたり聞こえたりすることもあります。さらに、すぐにいら立ったり興奮したりする、自発的に動くことせず内



イラスト・伊藤 司郎

適切にケアすれば回復

向的になる、刺激に反応しなくなるなど、感情や人格の変化が起きる場合があります。不眠を訴えることも多いです。
認知症との違いは①症状が急激に出る②一日のうちで症状が悪化したり軽快したり変動する③原因になる疾患の回復につれて症状が消え、一過性であることです。
せん妄は必ず予防できないわけではありません。しかし、症状を引き起こしている原因疾患に対する適切な治療やケアを受けることで回復します。誘発を抑える上では、せん妄を発生しやすい薬剤をできる限り使わないことも求められます。
せん妄の患者の多くは不安を感じています。環境を整えて安心させ、ストレスを感じさせないようにもすることが大切です。
家族は、患者が日付や時間が分かるよう時計、カレンダーをベッドサイドに置き、眼鏡や補聴器などを準備するようにしてください。落ち着いて、いつも通りの生活ができるようにすると安心します。
朝には日光が差し込むようにし、日中は起きていよう促すなど、規則正しい生活を送りやすくする工夫も欠かせません。五感の刺激を遮断しないことが患者にとって有益です。
痛みや発熱がないかといったことを聞くなど、温かく寄り添いましょう。水分を十分取っているか、脱水がないかを確かめることも大切です。
(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉
(平日午前8時～午後5時)
前らまかへ。